第3323図

ごまのはぐさ科

たちこごめぐさ

Euphrasia Maximowiczii *Wettstein*

山地の草原に産し、本属中我国で最も分布の広い種類である。茎は細そく高さ10–30cm、疎に分枝し、細毛が多い。葉は無柄で対生するが枝の上部では往々ずれて着き、広卵形で長さ3–10mm、縁に2–5対の鋸歯があり、上部の葉の鋸歯は先が刺状に尖り、縁がざらつく外は無毛である。夏、枝上部の葉腋に殆ど無柄の小花をつける。萼は4裂し、裂片は披針形で尖る。花冠は唇形で長さ6–8mm、白色で上唇は淡紫色をおび凹頭、下唇は巾3.5–5mmあり3中裂し、中央に黄斑があり、裂片は狭く凹頭をする。4雄芯、1雌芯。蒴果は細長く長さ約5mm、細毛がある。

第3324図

ごまのはぐさ科

みやまこごめぐさ

Euphrasia insignis *Wettstein*

本州中部の北部高山に産する1年生小草本である。茎は高さ4–15cm、単一又は少数の枝を分ち、白細毛がある。葉は対生であるが、上の方ではずれてつき、倒卵形で先は円く基は楔状に細まり、2–3対の鈍鋸歯があり、ほぼ無毛、長さ4–12mm巾3–8mm、往々下面脈間に暗紫色の斑紋がある。7–8月、葉腋に白花をつける。苞葉では鋸歯が尖る。萼は漏斗状で長さ3–4mm、4中裂し、脈上に微毛があり、裂片は3角状で先は鋭く尖る。花冠は唇形で比較的大きく、長さ8–10mm、上唇は紫色をおび、下唇は巾広く3中裂し、裂片は凹頭である。

第3325図

ごまのはぐさ科

ひなこごめぐさ

Euphrasia Yabeana *Nakai*

月山から立山にわたる裏日本の高山に産する1年生の小草本である。茎は高さ2–8cm、通常単一で白い細毛がある。葉は下部では対生し頗る小さく、上部では大きくなりずれてつき、倒卵形で先は円く基は楔状に細まり、1–3対の鈍鋸歯があり、無毛、長さ巾共に2–5mmある。7–8月、葉腋に白花を開く。苞葉もほぼ同形である。萼は長さ約3mm、4裂し、殆ど無毛、裂片は長楕円形、先は鈍頭で反りかえる。花冠は長さ8mm内外、下唇は大きく3裂し、裂片は凹頭である。4雄芯、1雌芯。蒴果は倒卵形で萼とほぼ同じ長さである。

しろやじおう（白矢地黄）

Rehmannia glutinosa *Libosch.* var. lutea *Makino*

支那の原産で薬用として古くは稀に栽培されたが、栽培はジオウより困難といわれ現在では見られない。多年草で根茎は長く横にはう。葉は長楕円形で下部は細まって葉柄となり、縁には不規則な鈍鋸歯があり、質はやや厚く脈は表面で凹んで皺となり毛が多い。茎は立った腺毛を密生し、下部には少数の葉を互生し、初夏茎頂に大形の数花をつける。萼は鐘形で5裂し、腺毛を密生する。花冠は長さ約4cm、淡黄色で喉部は少し淡紅紫色をおび、筒状部は長く、先は円い5裂片に分かれる。内に4雄芯1雌芯がある。シロヤジオウは紅紫花を開く普通品のアカヤ（赤矢）ジオウに対して淡黄花を開く品種の意味である。

第3326図

ごまのはぐさ科

だいせんくわがた

Veronica daisenensis *Makino*

伯耆（鳥取県）大山の岩地に産する多年生の小草本である。茎は高さ10–20cm、葉柄と共に軟毛がある。葉は長い柄があり対生し、長卵形で先は鈍頭又はやや尖り、長さ1–5cm巾5–30mm、やや深い不揃いの欠刻があり、殆ど無毛である。6–7月、茎頂に総状花序をなし、淡紫色の花を開く。花序には軟毛があり、萼は深く4裂する。花冠は径約1cm、深く4裂し、上側の裂片は最も大きく巾広く、濃紫色の脈がある。2雄芯1雌芯は長く花外に突出す。蒴果は倒卵形で先は凹み、長さ5mm内外ある。和名は大山（ダイセン）に産するクワガタソウの意味である。

第3327図

ごまのはぐさ科

はまとらのお

Veronica Sieboldiana *Miquel*

九州西南部の島及び琉球に産する多年生草本である。初め若い茎葉には多細胞の長軟毛が多いが、後茎の上部ではほとんど無毛になる。葉は対生し、下部のものは長い柄があり卵形で鈍鋸歯があり、上部のものは長楕円形で基は細まり柄がなく、鋸歯は往々不明瞭になり、長さ3–8cm巾1–3cm、質はやや厚く光沢がある。8–10月、茎頂に長さ10cm内外の総状花序をなして密に花をつける。花梗や萼には少し軟毛があり、萼は4深裂する。花冠は紫色で4深裂し径6–8mm、裂片は広卵形でやや尖る。雄芯2、雌芯1。蒴果は楕円形で長さ5mm許、先端は凹んでいる。

第3328図

ごまのはぐさ科